

CASBEE[®]さいたま2016年版 評価結果

■ 評価ソフト: CASBEEさいたま2016年版 | 評価ソフト: CASBEEさいたま2016Ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市南区北手袋二丁目	階数	地上7F
建設地	埼玉県さいたま市南区北手袋二丁目(仮称)北手袋二丁目	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	144人
地域区分	6地域	年間運用時間	8,760時間/年(標準)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計・設備評価
竣工年	2024年/月 予定	評価の実施日	2022年10月10日
敷地面積	1,082 m ²	作成者	西尾建築設計
建築面積	547 m ²	確認日	2022年10月10日
延床面積	2,862 m ²	確認者	西尾建築設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 83%
③上記②以外の: 83%
④上記: 83%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.1**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.0**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
本計画は建築基準法に基づき、よりよい住居の提供が旨となるように洗練された上質さを求めて単一用途の共同住宅をRC造で計画した。	特になし	
Q1 室内環境 断熱性能が等級1相当である。	Q2 サービス性能 省エネルギー対策が等級1相当である。	Q3 室外環境 (敷地内) 夜間照明の設置による防犯対策を行っている。
LR1 エネルギー 断熱性能が等級1相当である。LDE照明設備を採用している。	LR2 資源・マテリアル 省水器具を使用し、節水している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率83%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間のCO₂排出量を、建築物の寿命年数で除した1年間CO₂排出率のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)さいたま市南区慶手袋三丁目計画

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境										3.3
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能		12の採用。				5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界域遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界域遮音性能(騒音荷重源)						-	-	3.0	0.20	
4 界域遮音性能(音圧荷重源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.6	1.00	3.4
2.1 室温制御						3.0	0.50	4.0	0.63	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外気性能		品確法の断熱等性能等級と相当である。				3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ファン性能						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.38	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
3.1 屋光利用						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光率						3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開閉						-	-	3.0	0.30	
3 屋光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 視認性						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		建築材料は、ほぼ全面的にVOC低減対策が採用されている。				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙禁止						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						3.0	0.40	4.2	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		各住戸にバルコニーのフロアバルコニーが利用可能な環境が整備されている。				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー・等価						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 シェアスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・材料の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級は相当である。				5.0	0.20	-	-	
2 外装仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水設備の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・駆動支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり		-	-	3.0	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自口さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮(快活館の付)		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温暖環境の付	緑被率、中島木の水平面積:30%以上。	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法の断熱性能等級4相当である。	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.98、LLLT照明設備を採用。	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集客件数以外の評価		-	-	-	-	
4.1 エネルギー		-	-	-	-	
4.2 評価管理		-	-	-	-	
集客件数の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 エネルギー		3.0	0.50	-	-	
4.2 評価管理		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1 水資源確保		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築物等との継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から採出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	「躯体・軽鋼骨仕上材のデメンタル採用」	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 塗料(断熱材等)	ODF=0.0MP=0の発泡断熱材に新築材を使用している。	4.0	1.00	-	-	
3 冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率33%。	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温暖環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明の適切な配光・色温度への対策		3.0	0.70	-	-	
2 窓の建物外観・上層部材料の色・反射率への対策		3.0	0.30	-	-	